

# タイラギの海底養殖

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

瀬戸内海区水産研究所 海産無脊椎動物研究センター

主任研究員 山崎 英樹

前号の第29時限目に引き続き、高級食材として知られる二枚貝の「タイラギ」について、国立研究開発法人 水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所海産無脊椎動物研究センターの山崎氏にご執筆いただきました。今回は「タイラギを増やす取り組み」についてご紹介いただきます。

前報では、タイラギの資源が危機的状態にある話をしました。今回は、我々が現在行っているタイラギを増やす取り組みについてご紹介します。

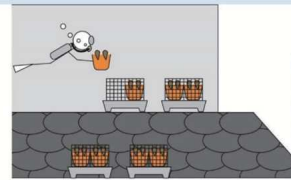
水産研究・教育機構では、長崎県総合水試・田崎真珠(株)と共同開発した浮遊幼生飼育装置を改良することにより、我が国で30年来超えることのできなかつたタイラギ着底稚貝の生産数・万オーダーを2013年に初めて達成し、近年では数十万個単位での人工種苗(受精卵から人間が育てた稚貝)の生産が可能になってきました。この技術によって量的確保が可能となった稚貝を利用し、2016年から新規養殖技術の開発に取り組んでいます。タイラギの養殖方法には、筏からの垂下式養殖の先行研究事例がありますが、今回、我々はタイラギの潜水漁業が行われている岡山県倉敷市児島周辺の地先海面を利用してタイラギ本来の生息域である海底域での養殖の可能性を検討してみました。

漁港内の防波堤基礎にタコやヒトデ等の大型生物からの食害を考慮して保護ケースを配置し、保護ケース内部に平均殻長4cmのタイラギ稚貝を入れた円形カゴ(基質としてアンスラサイト(無煙炭ろ過材)など使用)を2016年11月29日に収容しました。保護ケースは貝藻くん(海洋建設製)のメッシュケース(2cm目合)を食害防除用の保護ケースとして利用しました。稚貝は、2017年3月には6cmに成長し、水温の上昇とともに成長速度を増し6カ月後の8月29日の時点では、約13cmとなりました。その後も、順調に成長し、約1年2カ月後の2018年1月には最大で21cmまで成長し、成貝サイズに到達しました。また、最終生残率も79%と高い値でした。今回の一連の実験で、外敵から守ってあげることで、瀬戸内海では海底域での養殖生産が可能であることが分かりました。

なお、本研究は農研機構生研支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業」の支援を受けて行いました。

## 海底域(漁港)を利用した養殖が可能なのが明らかに

4cmの稚貝が1.2年で平均19cmに成長



7ヶ月後



通算生残率79%



1.2年後  
最大個体は21cm